



今村 定一

## 吉村昭・津村節子氏への対応と 地消地産への取組について

### 吉村昭・津村節子氏への対応について

#### 質問

過去3回関係の質問をし続け、新たな文学の町づくりに取り組んで頂きたいと思い、吉村昭氏の墓地の公開と津村節子氏の記念講演の開催を願ってきました。町長は居住地である東京荒川区や津村氏と協議のうえ対応を考えると答弁していますが、これまでの対応と今後の取組について伺います。

#### 町長答弁

検討した結果湯沢町は小説「雪国」が町のオリジナルであり、舞台である湯沢温泉の雪国文学散歩道を利用した街中歩きが大切であると考えています。

夫人である津村節子氏は今後も懇親を深めながら友好関係を大切にしていきたいと思っております。しかし町として吉村昭氏の命日に何かを催すとか津村節子氏の講演会を計画する考えはありません。墓地の公開についてもどれほどの人が訪れるかわかりませんが、公開によっていたずらや周囲の墓地に与える影響を考えれば町としては出来ないと思えます。

またこの件については町主導ではなく、町民の中での盛り上がりが必要であると感じております。町としての行動はそれからでも遅くないと考えています。

### 観光業等との連携による地消地産の取組について

#### 質問

平成23年度県農林振興部の重点事業として表題の推進を掲げています。南魚沼市では「道の駅」に直売所の整備が予定されているなど、地域の農産物のニーズが高まっている中で、観光の町湯沢にとっても力を入れる絶好の機会ではないかと思えます。

町長は自ら地消地産を言葉にし、観光の町として旅館が必要とするものを生産することが観光と農業の大切な連携と言われて来ましたが、その思いは変わらないと信じていますが、これまでの取組について伺います。

#### 町長答弁

地消地産の取組として湯沢産コシヒカリを旅館等で使用する取組を六年前から進めています。旅館での提供もお土産としても好評を得ていると聞いています。一昨年「湯沢町地消地産推進協議会」を立ち上げ旅館の料理長による食味の試食会等も行っています。毎年行っている東京での感謝の集いでも、湯沢産の米を始め、滝の又農産のソバ、苗場の原木なめこ等地域の食材をPRして大変喜ばれています。地元の食材を使った美味しい料理の提供は、最高のおもてなしと認識し旅館業と農業の更なる連携を支援していきます。県の支援を受けて山菜の栽培も取り組んでいます。今年度は「いちご

村」のハウスの増設への支援と県特産品である「越後姫」を湯沢町の新しい特産品に育てる支援をしているところであります。野菜等の栽培による地消地産の取組については町では進んでいないようですが、今後は地域にこだわらず、雪国観光圏の枠組みの中で考えて行く必要があると思っております。